

# 第11回 遠山藤原学校

—長野県最南部の遠山郷で、藤原直哉と21世紀的ライフスタイルを学ぶ—

**特集：遠山郷で里山に遊ぶ2日間**  
**—7月末：遠山郷の歴史をたどる—**



研修日程：2010年7月24日（土）・25日（日）の2日間

研修場所：長野県飯田市南信濃地区（遠山郷）

研修主催：シンクタンク藤原事務所

研修協力：遠山郷観光協会

## < 1、研修の内容 >

このたびは、第 11 回遠山藤原学校の資料請求をしていただき、まことにありがとうございます。遠山郷は長野県の最南端、飯田市の南信濃・上村地方の山深い谷にあり、飛騨の白川郷、越後の秋山郷と並んで、日本三大秘境のひとつとされています。

国の重要無形民俗文化財に指定されている遠山郷の霜月祭、神様の湯治場の伝説がある秘境の谷に湧いた天然温泉、遠山温泉郷「かぐらの湯」、日本のチロルと言われる下栗の里、南アルプスの雄大なパノラマを望むしらびそ高原、南アルプスの恵みをたっぷり含んだ名水・観音霊水など、数多くの伝統文化や雄大な自然が残っており、人と自然の本物の共生を体験したい人には、絶対お勧めの地域です。

さらに遠山郷は人情の里でもあります。遠山郷の人たちはとても人情味溢れた人たちで、特に都会の人たちとの交流が大好きです。そのため山村にありがちな閉鎖的で暗い雰囲気ではなくて、底抜けに明るくて建設的な雰囲気を、ここを訪れるみなさんに感じていただくことができます。特にこの研修では夜の懇親会に地元の有志をお招きして、共に食卓を囲み、お酒をいただき、楽しく交流していただきます。そうした心のふれあいがとても自然に、とても楽しく毎回行われるのも、人情の里、遠山郷の非常に大きな魅力です。

3年前から始まった遠山藤原学校は毎年、参加者が増えていまして、今年は3月から12月までの毎月開催となりました。そして今年のテーマは「遠山郷の里山に遊ぶ2日間」です。里山というのは、人が住む里と、人が行かない深山の間にある山のことで、里に暮らす人たちの生活のために手を入れられている山のことです。里山では人と動物、自然が共生していて、本当に日本の原風景とも言えるような姿がそこにはあります。特に戦後の近代化のなかで全国各地の里山が荒廃し、自然の生態系や人との共生生活が崩れてしまった場所が多く、遠山郷も例外ではありません。既に限界集落になっている場所も多い遠山郷では、我々のように外から来た人たちも手伝って、何とか里山を復活し、遠山郷にかつての賑わいを取り戻そうという動きが本格化しつつあります。そこで今回の研修では里山の魅力をみなさんに味わっていただき、里山を中心にした日本の原風景を堪能していただきます。そして2日目の午後には現地で、藤原直哉が「歴史のなかの日本」というタイトルで講演を致します。

ちなみに、今年12月までの毎月の予定は以下のようになっています（見学や体験の内容は地元、講師の事情や天候によって変更の可能性あり）。すべて土日です。

8月28・29日：遠山郷の夏祭り

遠山郷の祭り（1）御射山（みさやま）祭りと花火大会見学+遠山郷ミニ観光+畑作業+藤原直哉講演「遠山郷の未来を創るために」

9月25・26日：遠山郷の親睦会

陶芸教室+ソバ打ち実習+遠山郷ミニ観光+畑作業+親睦マレットゴルフ大会+藤原直哉講演「新しい日本のかたち」

10月30・31日（仮）：遠山郷の写真教室

遠山郷写真教室（水野秀彦氏）+遠山郷のジャズコンサート+畑作業+藤原直哉講演「21世紀の科学と精神世界」

11月27・28日（仮）：遠山郷の紅葉狩り

紅葉狩りウォーキング+遠山郷ミニ観光+畑作業+藤原直哉講演「2011年を考える」

12月4・5日（仮）：遠山郷の霜月祭り

遠山郷の祭り、国の重要無形民俗文化財・熊野神社の霜月祭りに参加

以下、体験研修の概要をご紹介します。

まず、1日目は12時20分に、遠山郷の中心、和田地区にあります国道152号線沿いの道の駅「遠山郷」内の、アンバマイ館という遠山郷観光協会の施設に集合していただきます。ここまで電車でお越しの方は、JR飯田線の平岡駅からスタッフが車でお迎えいたします。なお当日東京からお越しの方は、東京8時33分発のひかり505号にご乗車いただき、豊橋で飯田線の特急伊那路1号に乗り換えて、平岡には11時57分に到着します。

ここで「アンバマイ館」という名前の由来ですが、「あんばまいか」というこの地方の方言からとったもので、「遊びましょう」という意味です。方言には標準語にはない温かみがあります。また遠山郷では方言で、よく語尾に「だに」をつけます。地元の方と話をすると必ずといっていいほど聞くことができる方言です。

今回の研修ではアンバマイ館に集合していただいてからみなさんに自己紹介をしていただきます。それから地元のレストラン、「味ゆーらく」にてお昼ご飯を頂きます。この味ゆーらく料理長は京都で日本料理店を経営されておられた方で、遠山郷が好きになってアイターンされた方です。またここには昨年度まで当社の社員だった荒井茂樹が社員として厨房で働いております。最近是这样して遠山郷に移り住んで仕事をする人が少しずつ増えてきました。

昼食後は和田地区の中心街、江戸時代から伝わる国道152号線・秋葉街道の宿場町、和田宿を歩いて通って、この地域を治めていた遠山氏の菩提寺、龍淵寺に行きます。そして境内に沸く観音霊水をいただきます。観音霊水は江戸時代に徳川氏に滅ぼされたこの地域の豪族、遠山氏の居城に4百年以上前から湧いているお水で、真夏や早魃でも枯れずにいつも冷たくておいしい水がコンコンと湧いています。そのお水を近年専門家に調べてもらったところ、カルシウムやマグネシウムの含有量が日本で最も多い、すばらしい名水であることがわかり、最近では地元や近郊の方はもちろんのこと、東京や大阪から百リットルも2百リットルもお水を汲みに来る方がおられます。こういう硬水は味にクセが強いことが多いのですが、観音霊水は硬水でありながら大変口当たりがよく、特にコーヒーや紅茶にして飲むとおいしく、また日持ちが大変良いので、非常用のお水としても汲みに来る方が絶えません。また境内には樹齢5百年の観音大杉があります。これは根元が一体となった4本の杉で、家族和合のしるしとして、参詣する人が絶えません。

そして観音霊水の隣にある「殿町の茶屋」に行きます。ここは地元の女性が経営しているお饅頭屋さんで、名物のふじ姫饅頭はその日の朝に作って売切れたら終わりという非常に人気の高いお饅頭です。遠隔地から来られる方はどうしても遠山郷に来るのが午後になってしまい、何度来ても売り切れで食べられないという幻の饅頭でもあります。よもぎとそばの2種類の饅頭が8個入って千円のふじ姫饅頭は、遠山郷の外はもちろんのこと、遠山郷のなかでもこの殿町の茶屋でしか販売されておらず、ファンが絶えません。さらにここではお店の方がお客さんにお茶やお漬物を接待してくださり、多くの方が地元のみなさんの暖かい人情に触れて感激していかれます。

それから近くにある地元の遠山郷土館「和田城」に寄って、遠山郷の歴史と遠山郷に伝わる「霜月祭り」というお祭りのことを簡単に勉強していただきます。霜月祭りとは国の重要無形民俗文化財に指定されているお祭りで、毎月12月に遠山郷一帯の神社で開かれます。神社の社殿のなかに据えた釜に湯をたぎられて、全国からいらっしゃる神様にお湯を差し上げ、そののち、地元の神様をお呼びして神様と人が楽しく戯れるという、とても珍しいお祭りです。その起源は平安時代とも室町時代ともいわれますがよくわかりません。ただそのなかにかつてこの地を治めていて、徳川氏に滅ぼされた遠山氏の一族の霊を慰める祭りが組み込まれています。

そして木沢地区に向かいます。途中、小道木（こどうき）地区で遠山川の河原に下りて散

策をしたいと思います。ここには河原に埋まっている**埋没木**があります。埋没木は今から1300年ほど前に一瞬の山崩れで埋没してしまった、当時の樹齢数百年のヒノキやケヤキの立ち木が近年露出したものです。ヒノキなどは今でもヒノキの香りが漂い、古代の木の命をそのまま感じることができます。さらにこの地区には、遠山郷の霜月祭りが開催される**熊野神社**があります。実は熊野神社の拜殿の前の地面に手をかざすと、不思議と気を感じます。それが何に由来する気かはわからないのですが、とにかく**気の出る神社**です。

それから遠山郷の木沢地区にある、木造校舎の廃校を利用した地域活性化施設、**旧木沢小学校**に向かいます。旧木沢小学校は平成3年に休校、平成11年に廃校となった地元の小学校で、現在でも残る懐かしい木造校舎は、昭和7年に地元の人々の情熱によって建てられたものです。そのため廃校後も何とかこの木造校舎を保存し、同時にここを地域活性化の拠点とすべく、地元の有志が**木沢地区活性化推進協議会**という団体をつくって木造校舎の維持管理を行っています。校内の教室には遠山郷の霜月祭り、地元を走っていた森林鉄道である**遠山森林鉄道**、南アルプスの登山道整備などを行っている**遠山山の会**、昭和時代の遠山郷の写真などが展示されているほか、藤原直哉の蔵書3千冊を寄贈した**藤原文庫**もあります。さらにここには年間を通じて多くの方が見学に訪れ、また空き教室を利用した講演会や集会、交流会、映画の撮影などがたびたび開かれていて、まさに地元の方と来訪される方との貴重な交流の場にもなっています。そしてこの小学校のすぐ隣に**遠山藤原学校**の事務所があり、その隣には、**遠山藤原学校観光農園**があります。この農園は廃耕地となっていた畑をお借りして、当社で募った遠山郷ボランティアと地元のみなさんが力を合わせて2年前に開いたばかりの農園で、遠山藤原学校における木沢地区の里山整備の拠点にしている場所です。今回はここで遠山藤原学校スタッフのリードで、農作業実習を行っていただきます。農作業はみんなでするととても楽しいものです。ちょうど夏野菜が本格的に育っている頃ですので、みんな楽しく実習ができると思います。遠山郷ののどかな里山のなかに広がる観光農園で、自然と触れ合う楽しいひとときをお過ごしください。それから遠山郷は深い歴史を秘めたところでもあります。木沢小学校の前には**正八幡神社**という鎌倉の鶴岡八幡宮由来の神社があり、今回は地元の方に神社の由来などを解説していただきます。またこのお宮でも国の重要無形民俗文化財に指定されている**霜月祭り**が毎月12月に開催されます。

作業のあとは、遠山温泉郷**かぐらの湯**にお入りいただきます。かぐらの湯は地元で沸く温泉で、源泉温度42.5度の全国でも珍しい高濃度塩化物温泉（ナトリウム・カルシウム塩化物温泉）です。大変豪快な露天風呂もあり、今日一日の疲れを遠山の気がみなぎった温泉でゆっくりと癒してください。この地域は日本列島を東西に走る**中央構造線**という大断層のために地形が非常に複雑で、地質学的にも謎が多い場所です。この温泉もそういう複雑な地質が生んだ珍しい温泉で、ファンが増えています

そしてその後、今日お泊まりの**大島屋旅館**にチェックインしてから、地元の若者が経営するレストラン**食楽工房 元家（げんや）**にて夕食兼懇親会となります。このレストランは地元の元気な若者が経営しているレストランで、地元の食材を生かした創作料理を多数つくっています。遠山郷で最近注目の場所でもあります。またその後は、ご希望の方を地元のカラオケスナック**舞夢**へお連れします。地元の方も他所から来た方も元気に歌声を響かせているところです。

二日目は旅館で朝食をいただいた後、さっそくマイクロバスで**青崩峠**方面に出発します。青崩峠とは国道152号線、昔の街道名でいえば秋葉街道にある要衝で、標高は1082メートル。信濃と遠江（とうとうみ）、今の言葉でいえば信州と遠州、長野県と静岡県を隔てる峠で、中央構造線沿いにあります。今回はこの青崩峠をみなさんで歩いて越えてみます。まずバスは大島屋を出て10分もかからないうちに国道152号線沿いの**梁木島（はりのきじま）番所跡**に着きます。ここはかつてこの地域を治めていた遠山土佐守が徳川家康の命により大坂夏の陣・冬の陣で敗走した豊臣方の落人を取り締まっていた関所跡で、その後は遠山郷から搬出する材木の取り締まりなどを行っていたところです。現地には当時の建物がその

まま残っていますので、これを外側から見学します。そしてバスはいよいよ険しい峠道に入ります。途中、バスは**此田**（このた）という大変眺望の良い集落を通ります。そしてこの集落の最も高いところにある、**大野田神社**に行きます。この神社は南朝方第3代長慶天皇を祀（まつ）った神社と言われていて、非常にすがすがしい神社の境内には天国のような不思議な雰囲気漂います。南北朝時代には中央構造線沿いに吉野の南朝の都から多くの皇子や武士たちがこの地域に逃れてきました。この神社もそういう歴史の大転換期に南朝方の天皇が来た場所としてお宮を建てたようです。

そしてバスはそこからさらに登って**兵越（ひょうこし）峠**につきます。この峠は標高が1165メートルあり、青崩峠があまりにももろくて車道を通せないためにう回路として整備された峠です。かつて武田信玄が徳川家康を攻める際、信州から遠州に兵を進めるときに通った峠と伝えられています。実はこの青崩峠、兵越峠は非常に険しい峠で、特に冬は雪が降ると不通になり、地元の人たちにとってはここに立派な車道がつくことは長年の悲願でした。そして現在、青崩峠の南北には青崩トンネルという長大トンネルを通す計画が進んでいて、地元としては一日も早くこのトンネルが開通して、信州と遠州の行き来が楽にできることを祈っているのです。そこで峠の北側の飯田市・南信濃の商工会と南側の浜松市・水窪（みさくぼ）の商工会がここで毎年一回、両者の交流を盛んにすることを目的に**峠の国盗り綱引き合戦**を行っています。これは3本勝負の綱引きで、勝った側に国境が1メートル動くというもので、双方とも毎年精鋭を揃えて勝負をしています。

バスは峠を水窪側に下り、改めて水窪側から青崩峠直下に向かう道を登っていきます。途中に**足神社**があります。この神社は鎌倉時代に北条時頼の足の痛みを治した辰次郎という地元の人を祀った神社で、全国でも珍しい足の神様を祀る神社です。とても神気あふれる神社です。それからバスはその奥の駐車場で止まります。そこから我々はまず20分の遊歩道を青崩峠に向けて登ります。道は昔の青崩峠そのままに立派な**石畳**になっていて、かつてここを人や馬が頻繁に行き来した時代の光景が彷彿とよみがえってくるようです。やがて石畳が終わってなだらかな坂を登ると、ひょっこり**青崩峠**につきます。ここからは信濃と遠江の両方の国の山並みが細長く見渡せて、改めてここが太古の昔から日本に伝わる長大街道だったのだと納得します。本当に中央構造線沿いの地形は雄大なのです。そしてここから信濃側へ、遊歩道と林道をゆっくり1時間半下って、先ほどのバスが先回りして待っている地点まで歩いて行きます。なお下りに自信のない方は登って来た道をバスまで戻っていただいて、バスで行っていただきます。下りの1時間半の道中では青崩れという言葉の由来になった巨大な**破碎帯の崩壊地形**を見ることができ、**中央構造線の露頭**を見ることができ、さらに往時の狭い人道も残っていますし、非常に大胆な自然の光景をご覧いただけます。

バスは12時半過ぎには再び和田に戻ってきて、和田で昼食をいただき、旧木沢小学校に戻ります。

**なお、青崩峠は雨が降ったり雨の直後は危険ですので行くことができません。さらに遊歩道、林道、車道が通行止めの場合にも行くことができません。**その場合には日曜日の朝から、人形劇で有名な飯田市内の**川本喜八郎人形美術館**など、飯田市内の歴史ポイント等を見学して遠山郷に昼ごろ戻ってきます。繰り返しますが天気によっては青崩峠に行くことができませんので、あらかじめご承知おきください。また、青崩峠は徒歩で行きますので、徒歩が難しい方はバスでの見学のみとなります。そしてご参加の方は初級のハイキングに耐えられる運動靴か登山靴、そして雨具、防寒具、非常食などのハイキング用具をお持ちください。

そして旧木沢小学校に到着後、午後2時から3時半まで空き教室で藤原直哉の講演「**歴史のなかの日本**」を聴いていただきたいと思います。昔に戻ったように、小学生用の木の椅子にすわっていただき、講師は教壇に立ち、黒板を使い、講演をさせていただきます。

講演後は地元の方々とお時間の許す限り交流していただきたいと思います。どうぞ真夏の遠山郷で、時間を忘れておくつろぎください。

そして午後3時45分に旧木沢小学校で解散。お車を道の駅「遠山郷」に駐車された方、

電車でお帰りの方はそれぞれ道の駅「遠山郷」、平岡駅まで車でお送りいたします。電車で東京方面にお帰りの方は、平岡を16時42分に出る特急伊那路4号で豊橋に行き、豊橋からひかり526号に乗り換えて、東京には20時10分に到着します。

今回も盛りだくさんの内容ですが、縁ある数多くの方々に遠山郷の自然と人情、そしてそのなかで生きる喜びを味わっていただき、遠山郷の里山に遊んでいただいて、遠山郷のファンとなり、21世紀を明るく元気に生きるための、たくさんの知恵と実力を得ていただきたいと思っています。一人でも多くの方のご参加を心からお待ちしております。

2010年6月吉日  
シンクタンク藤原事務所  
経済アナリスト 藤原直哉

## < 2、研修日程表 >

7月24日（土）

時間	予定	写真
12:20	集合 <u>道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館に集合</u> 研修の説明と参加者の自己紹介、スタッフ挨拶	
12:30	昼食 地元のレストラン「味ゆーらく」にて昼食	
13:00	出発 徒歩にて和田地区の観光に出発 和田宿、観音霊水、観音大杉、殿町の茶屋、遠山郷土館「和田城」	
14:45	出発 木沢地区に向けて出発 途中、埋没木、熊野神社を見学	
15:30	到着 旧木沢小学校到着 遠山藤原学校観光農園にて農作業実習 途中、正八幡神社を見学	
17:30	出発 和田地区に向けて出発	
17:45	到着 大島屋旅館到着、チェックイン。その後徒歩にてかぐらの湯へ	
18:00	到着 かぐらの湯にて温泉をお楽しみください	
18:45	食楽工房「元家」にて、夕食、懇親会。	
20:30	希望者は二次会に、舞夢へ	
	<u>観音霊水を汲んで帰られる方は、</u> <u>ペットボトルやポリタンクを</u> <u>ご用意下さい。</u>	
	<u>1 日目には農業作業をしますので、</u> <u>汚れてもよい作業着と軍手をお持ち</u> <u>ください。長靴は当方で用意します。</u>	
	<u>また、2 日目には軽度のハイキングを</u> <u>行います。そのため、</u>	
	1、 <u>運動靴あるは登山靴</u>	
	2、 <u>カッパなどの雨具</u>	
	3、 <u>薄手のセーター、ジャンパー等</u> <u>防寒具</u>	
	4、 <u>氷砂糖、乾パン等の非常食</u>	
	5、 <u>水筒</u>	
	<u>を各自ご用意ください。</u>	

アンバマイ館

遠山川

遠山藤原学校観光農園

熊野神社（気の出る神社）

龍淵寺

7月25日(日)

時間	予定	写真
7:30	朝食	 <p>足神神社</p>  <p>水窪側遊歩道入口</p>  <p>秋葉街道の石畳</p>  <p>青崩峠</p>
8:00	出発	
8:10	到着	
8:25	出発	
8:40	到着	
9:10	出発	
9:20	到着	
9:30	出発	
9:50	到着	
10:00	出発	
10:05	到着	
10:10	出発	
10:30	到着	
10:40	出発	
11:00	到着	
12:15	到着	
	出発	
12:30	到着	
13:15	出発	
13:30	到着	
14:00	講演	
15:30	終了	
15:45	解散	

列車でお越しの方は、JR 飯田線の平岡駅までお送りします。道の駅「遠山郷」にお車を駐車の方は駐車場までお送りします。豊橋方面行特急は16:42発です。

なお、悪天候、道路不通など危険な場合は青崩峠方面には行かず、日曜日の午前中は飯田市内の歴史観光となります。

### < 3. 研修費用 >

研修費用 大人 1名	20,000円
学生 (大学生・専門学校生以下、中学生以上) 1名	10,000円
子供 (小学生以下) 1名	5,000円
なお、お食事とお布団の事前のご用意が必要でない乳児は無料です	

#### (1) 研修費用に含まれるもの

・ 宿泊料金	原則として相部屋です。ご家族での一部屋でのお泊りはできる限り配慮させていただきますが、保証はできませんのでご容赦ください。宿泊は、大島屋旅館 〒399-1311 長野県飯田市南信濃和田 1394 TEL 0260-34-2030、FAX 0260-34-2077
・ 食事料金	日程表に記載された昼食2回、夕食および懇親会1回、朝食1回 (なお、子供料金にてご参加の方は、1日目の夕食がお子様定食です)
・ 研修ガイド料 ・ 講演料 ・ 温泉入浴料 ・ 入場料・管理費 ・ 遠山郷内交通費 ・ 旅行保険料	日程表に記載された藤原直哉講演会の講演料、旧木沢小学校管理費および研修ガイド料、郷土館入館料、温泉入浴料、研修中の遠山郷内の交通費、下記旅行保険料
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉
・ 旅行保険	(限度額お一人様死亡障害4千万円)

#### (2) 研修費用に含まれないもの

・ 個人的性質の費用	タバコ、洗濯、電報電話、お酒・ジュース等の飲み物、お土産、個人の飲食などは個人負担をお願いします
------------	--

#### < 4. 研修要領 >

募集人員	<p>20名（最小催行人数：5名）          なお、先着順にお申し込みをお受けし、定員になり次第締め切ります。          参加申込書をシンクタンク藤原事務所宛てにお送りください          （FAX または郵送でお願いします）</p>	
研修代金	<p>2010年7月16日（金）までに、研修代金の全額を以下の口座へお振込みください。          郵便局          記号：10250          番号：89520371          口座名義：有限会社藤原事務所          または          ゆうちょ銀行（郵便局）          店名：〇二八（ゼロ二ハチ）          店番：028          預金種目：普通預金          口座番号：8952037          口座名義：有限会社藤原事務所</p>	
取消料	<p>お申し込み後、お客様の都合でお取り消しになる場合、当方の手続きを開始または完了している場合は、次の取消料を申し受けます。</p>	
	<p>出発日の前日より起算して1ヶ月前まで</p>	<p>大人1万円          学生5千円          子供2千5百円</p>
	<p>出発日の前日より起算して2週間前まで</p>	<p>参加費用の40%</p>
	<p>出発日の前々日および前日</p>	<p>参加費用の50%</p>
	<p>出発日の当日又は無連絡不参加の場合</p>	<p>参加費用の80%</p>
	<p>研修開始後</p>	<p>参加費用の100%</p>
研修主催（お問い合わせ）	<p>シンクタンク藤原事務所          〒250-0055 神奈川県小田原市久野849-10          電話 0465-32-1791          FAX 0465-32-1794          電子メール higuchi@fujiwaraoffice.co.jp          担当 樋口敬子（ひぐち けいこ）</p> <p><u>なお、当日の緊急連絡は、遠山藤原学校スタッフ用携帯電話へお願いします。090-9297-5475</u></p>	

## < 5. 研修概要 >

・ 研修名称	第11回 遠山藤原学校
・ 日時	2010年7月24日(土)・7月25日(日)の2日間
・ 研修場所	長野県飯田市南信濃地区
・ 集合・解散場所	現地 集合：24日(土) 12:20 道の駅「遠山郷」内、アンバマイ館 解散：25日(日) 15:45 旧木沢小学校 <u>なお、当日の緊急連絡は、遠山藤原学校スタッフ用携帯電話へお願いします。090-9297-5475</u>
・ 研修内容	各種見学、実習、ハイキング、講演など
・ 研修講師	シンクタンク藤原事務所 藤原直哉

## < 6. 集合・解散場所まで/からの交通手段 (ご参考) >

(1) 自家用車でお越しの場合	<p>集合場所： 長野県飯田市南信濃和田 548-1 道の駅「遠山郷」内、 観光案内所「アンバマイ館」 (電話 0260-34-1071) 中央高速道 飯田インターチェンジから約70分。</p> <p>解散場所： 長野県飯田市南信濃木沢 旧木沢小学校 中央高速道 飯田または松川インターチェンジまで 約1時間。または、兵越峠経由、東名高速道浜松インターチェンジまで、約2時間半。</p>
(2) 電車でお越しの場合	<p>東京方面から (行き) 東京 8:33 ひかり505号 豊橋 9:59 豊橋 10:08 特急伊那路1号 平岡 11:57 下車後 道の駅「遠山郷」まで車で20分 (帰り) 旧木沢小学校から平岡駅まで車で30分 平岡 16:42 特急伊那路4号 豊橋 18:31 豊橋 18:43 ひかり526号 東京 20:10</p>

## < 7. 注意事項、および持ち物など >

- ・ 農園作業をしますので、汚れてもよい作業着と軍手をお持ちください。長靴は当方で用意します。
- ・ 軽度のハイキングを行いますので、(1) 運動靴あるは登山靴、(2) カップなどの雨具、(3) 薄手のセーター、ジャンパー等の防寒具、(4) 氷砂糖、乾パン等の非常食、そして(5) 水筒をご用意ください。
- ・ 山道のため、自家用車の運転や乗り物酔いにはくれぐれもご注意ください。
- ・ 乗り物酔いをご心配の方は、酔い止め薬を服用されることをお勧めします。
- ・ 観音霊水を汲んで帰られる方は、ペットボトルやポリタンをご用意下さい。
- ・ なお、携帯電話は、電波が届かない場所があります。

# 申 込 書

第11回 遠山藤原学校 7月24・25日

ご記入日： 年 月 日

**どちらかを選択してください** ・ 自家用車でご参加 ・ 電車でご参加

フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	生年 月日	明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
弊社お客様番号 (おわかりになる場合)		
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)
フリガナ	性別	男 ・ 女
お名前	続柄	生年 月日
		明・大・昭・平 (西暦 年) 年 月 日 (満 歳)

## ■ ご連絡先について

ご自宅     会社・学校    ※どちらかにチェックをおつけください。

※ご連絡先が「会社・学校」の場合にご記入ください。

会社名 学校名等	部署： _____ 役職： _____		
ご連絡先 住所	〒 _____		
TEL	(       ) _____	FAX	(       ) _____
携帯電話	緊急時 連絡可・不可		
電子メール	@ _____		
喫煙の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <small>※部屋割りの参考にさせていただきます。</small>		

●その他ご希望等ございましたらご記入ください。

シンクタンク藤原事務所 担当：樋口敬子 〒250-0055 神奈川県小田原市久野849-10  
TEL 0465-32-1791 E-Mail higuchi@fujiwaraoffice.co.jp

↑ FAX送信先：0465—32—1794 ↑